



# 英米文学における諷刺の研究

[キーワード: 英米文学、諷刺、ユーモア]

准教授 山内 暁彦

## <研究の概要>

- 諷刺とユーモアの要素を含む作品を対象に、英米の文学作品の内容や形式について研究しています。対象は、スウィフトの『ガリヴァ旅行記』、オーウェルの『動物農場』から、キャロルの『不思議の国のアリス』、バリーの『ピーター・パン』に至るまで多様ですが、いずれの作品を扱う場合も、原典を精読し、内容に見出される齟齬や違和感を読み解いて行くという態度で考察を深めて来ました。
- スウィフトの研究に関しては、人生の諸問題を中心テーマに据えた場合も多く、論文「*Gulliver's Travels*に見られる老い」では、人類に普遍的な問題である加齢の問題を扱いました。オーウェル研究では、動物の操る言語に着目しましたし、キャロル研究では、印象批評の手法に立ち返ってみました。バリーに関しては、従来指摘されることのなかったファンタジーにおける諷刺という観点から論じたりと、様々な手法を駆使して文学作品を研究しています。
- 従来から、英米文学史上の正統的な作品というよりはむしろ、一風変わった作品を研究の対象に取り上げて来ました。今後、様々なジャンルの作品を対象に、英米文学における諷刺とユーモアの研究に取り組んで行く予定です。特に、混迷する現代社会に対するメッセージ性をも備えた、スウィフトの『ガリヴァ旅行記』やオーウェルの『動物農場』などの作品の価値は、高まりこそすれ減ることはないでしょう。当面はこれらの作品を中心に、諷刺の持つ力とその適切な使用法を研究して行く予定です。

## <主要研究業績>

- 山内暁彦(2016)「『ガリヴァ旅行記』と『セヴン』における「怒り」の特質について」『言語文化研究』24、徳島大学総合科学部、1-22
- 山内暁彦(2015)「ジョージ・オーウェル『動物農場』の使用言語」『言語文化研究』23、徳島大学総合科学部、17-42
- 山内暁彦(2013)「ピーター・パンと牧神「パン」」『Hyperion』59、徳島大学英語文学会、15-32
- 山内暁彦(2012)「*Gulliver's Travels*に見られる老い—記憶力の衰えを中心に—」『Hyperion』58、徳島大学英語英文学会、15-32
- 山内暁彦(2008)「『不思議の国のアリス』の不安定感について」『Hyperion』54、徳島大学英語英文学会、9-19
- 山内暁彦(2005)「フウイヌム的美徳とヤフーの悪徳—『ガリヴァ旅行記』における人間性について—」園井英秀編『英文学と道徳』九州大学出版会、309-324

専門分野 : 英米文学

Email : yamauchi.akhiko@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-7132

Fax : 088-656-7132

詳細情報 : <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/60560/profile-ja.html>